



概要

北空知4町(妹背牛町、秩父別町、北竜町、沼田町)地域は、北海道空知管内の北部に位置し、人口9,923人(2021年1月住基人口)、総面積537.87km²であり、道内屈指の良質の米の生産地域である。地域内の路線バスは、人口減少、コロナ禍による運賃収入減少、運転手不足、市町村負担の増大などで路線を維持することが困難となっているほか、JR留萌本線が平成28年11月に「単独維持困難線区」と位置づけられ、協議が続いていることなどを踏まえて、この地域における住民ニーズを把握しながら、持続可能な公共交通の維持に向けて「北空知4町地域公共交通計画」を策定する。

○地域公共交通の現況

- ・JR線:函館本線(妹背牛駅)、留萌本線(秩父別駅、石狩沼田駅等)
- ・空知中央バス(株):沼田線、北竜線、深滝線
- ・北海道中央バス(株):高速るもい号(2系統)、滝川北竜線(R4.3廃止予定)
- ・沿岸バス(株)・道北バス(株):留萌旭川線
- ・沼田町営バス(一部スクールバス兼) ・4町スクールバス(7路線)
- ・福祉有償(北竜町) ・乗合タクシー(北竜町、沼田町)

○地域公共交通の課題

- ・利用者の減少やコロナ禍による収入減、運転手不足、町財政負担の増
- ・高齢者ドライバーの事故リスク、乗換などによる移動時間の増
- ・JR留萌線が平成28年11月に「単独維持困難線区」に位置づけ

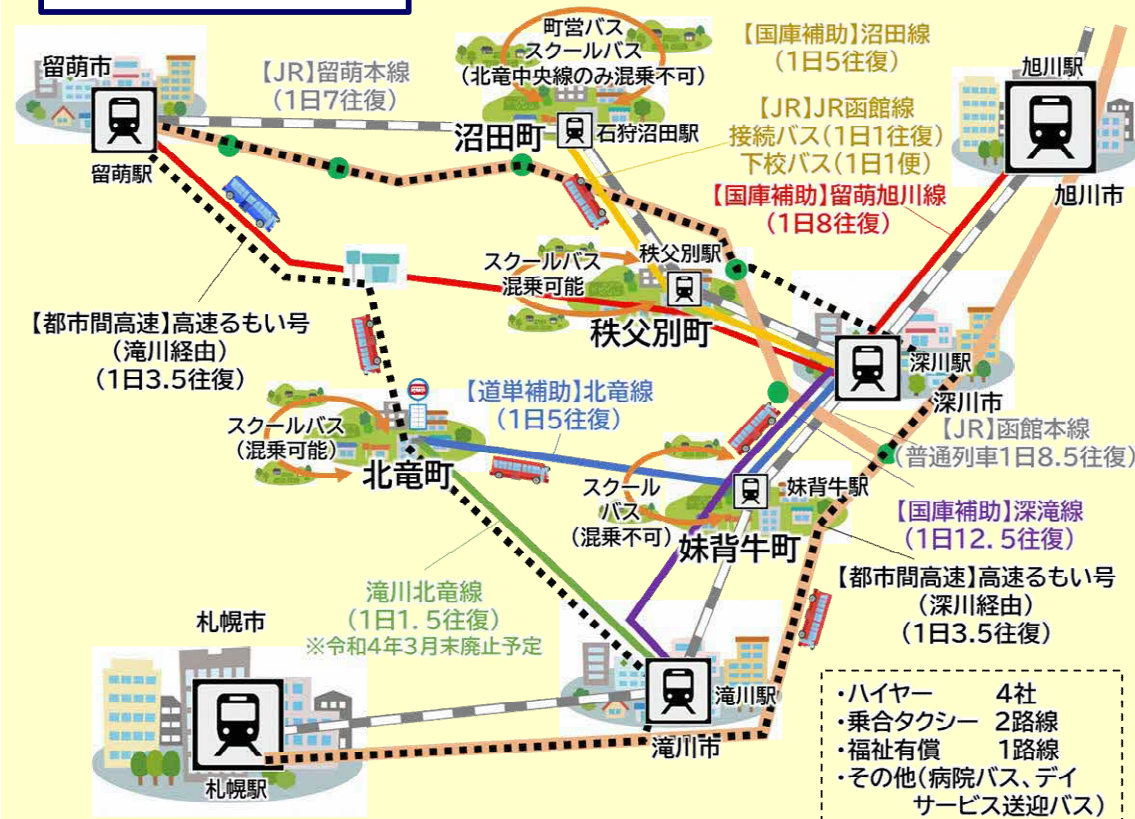
○調査の主な内容

- ・JR及び路線バスの交通乗降調査の実施
- ・地域住民のニーズ調査(アンケート調査)

○地域公共交通活性化協議会開催状況

- 4月20日 第1回協議会及び専門部会を開催
 - ・各種規程、現状課題、調査事業・スケジュール・予算の承認
- 7月6日・13日 第2回専門部会及び協議会を開催
 - ・アンケート調査内容の承認
- 12月27日・1月12日 第3回専門部会及び協議会
 - ・アンケート調査結果及び計画の方向性の承認
- 2月頃 第4回専門部会及び協議会
 - ・計画素案の承認

公共交通の概要



北空知4町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

【北空知4町の地域概況整理】

- ・地勢・人口分布等の概況、主要施設や公共交通の現況、上位・関連計画等の整理

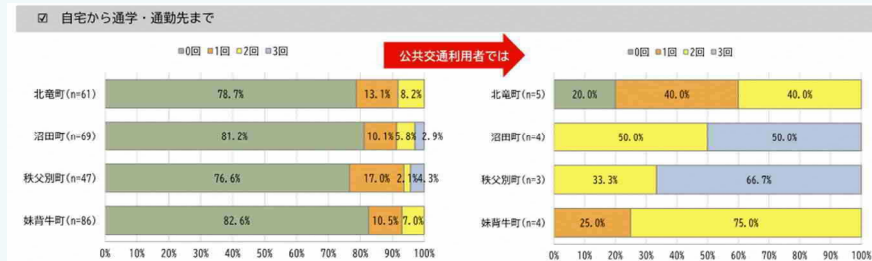
【北空知4町の地域公共交通実態調査】

- ・北空知4町エリアの住民における通勤・通学・通院・買い物等生活圏をはじめとした移動の実態を調査し、ニーズの把握と公共交通の必要な見直しを図る。

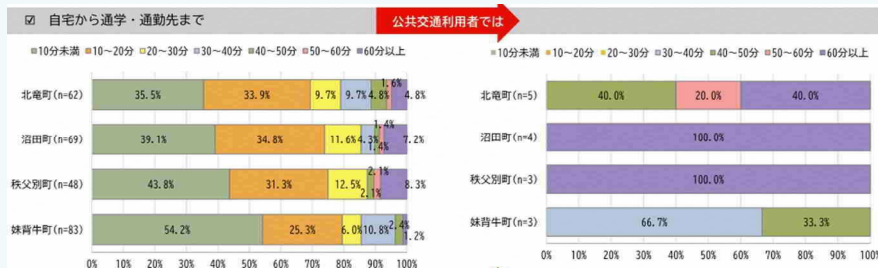
(1)住民アンケート調査

- ・15歳以上の住民を対象に1,600世帯(1世帯2票)に対して送付
- ・アンケートの結果、通学や通勤時に公共交通を利用している町民では、目的地まで直接向かうことが難しいため、乗換回数や移動時間が多くなっている実態が見られる。
- ・「利用実態に応じた運行路線の短絡化や車両小型化など、運行規模の適切化を図りながら、地域公共交通を維持していくことが望ましい」とする回答が6割以上あり、利用実態に応じた見直しが必要。

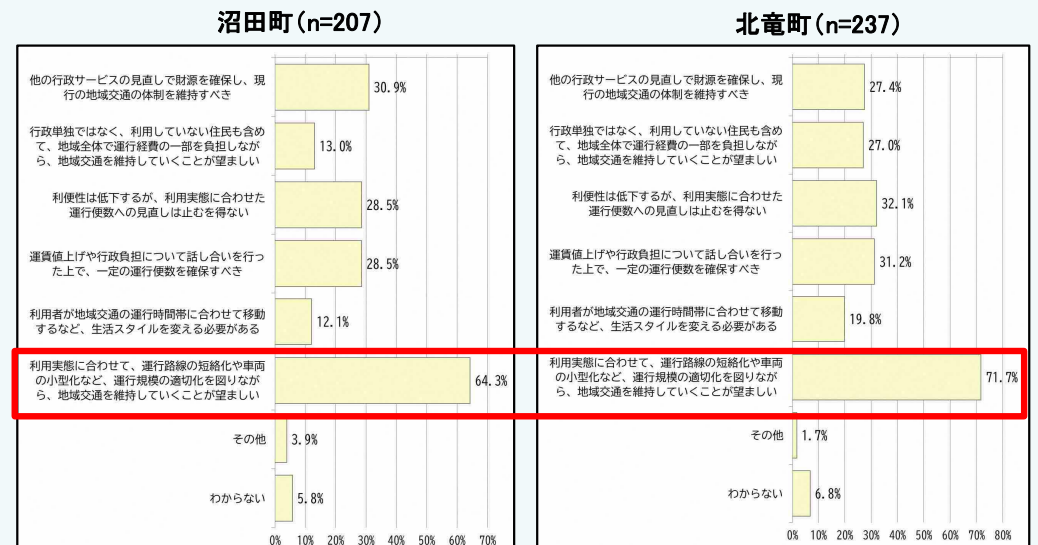
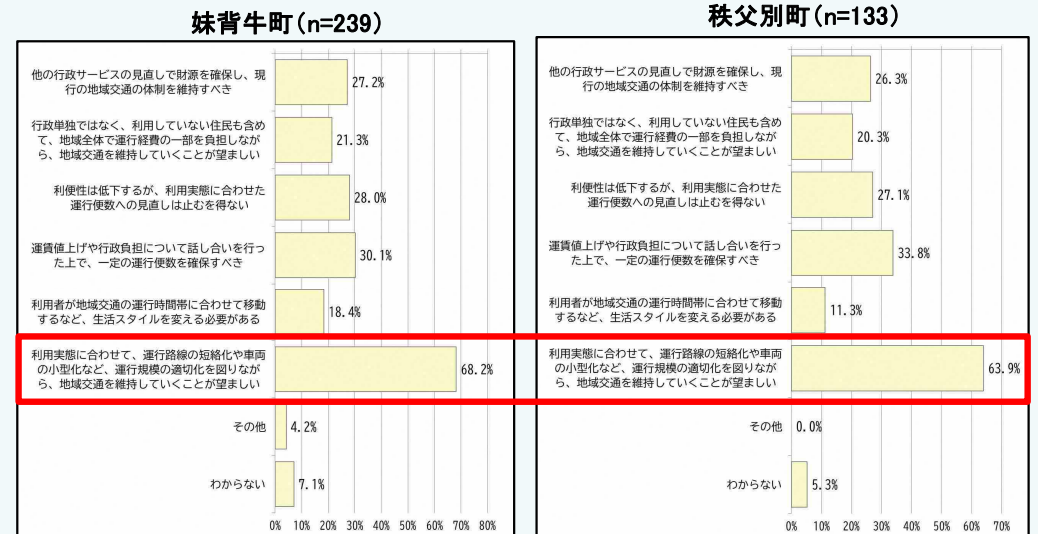
問8 通学・通勤の状況【夏季の乗換回数】



【夏季の総移動時間】



問14 地域交通の維持・確保に向けた考え【いくつかも】



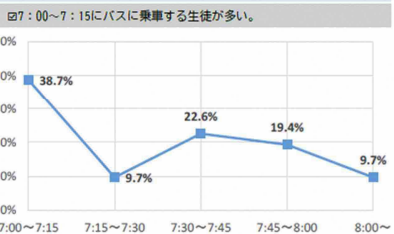
北空知4町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

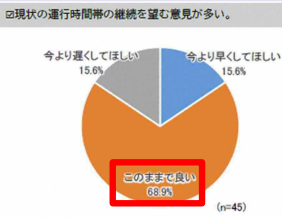
(2)通学アンケート調査

- ・4町から深川・滝川の公立高等学校に通学している生徒に対する調査
- ・JRやバスに乗車する時間帯では6時～7時台の早い時間帯に利用している一方、「現状の運行時間帯で良い」という回答が7割以上あることから、現状の運行形態や路線の維持を図ることが重要。
- ・進学先を選択する際に4割が公共交通の運行状況を意識しているほか、部活動への影響の意識もみられる。

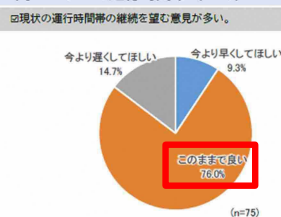
問6 通学時、バスに乗車する時間帯 (n=31)



問6 バスの運行時間帯 (n=45)

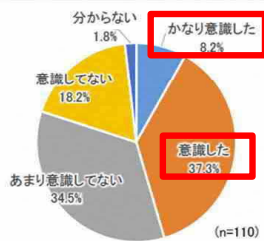


問7 JRの運行時間帯 (n=75)



問8 進学先を選ぶ際に公共交通の運行状況を意識したか

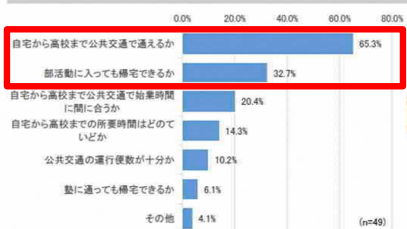
図10: 秩父別町から進学する生徒は、他の町よりも公共交通の運行状況を強く意識している。



	妹背牛町 (n=33)	秩父別町 (n=18)	北竜町 (n=24)	沼田町 (n=34)
かなり意識した	3.0%	11.1%	4.2%	14.7%
意識した	39.4%	55.6%	37.5%	26.5%
あまり意識してない	33.3%	11.1%	37.5%	47.1%
意識してない	24.2%	22.2%	20.8%	5.9%
分からない	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%

問9 意識した運行状況の内容

図11: 自宅から通学できるか、部活動への影響を意識している傾向。



	妹背牛町 (n=14)	秩父別町 (n=11)	北竜町 (n=10)	沼田町 (n=14)
自宅から高校まで公共交通で通えるか	50.0%	72.7%	90.0%	57.1%
自宅から高校まで公共交通で始業時間に間に合うか	28.6%	0.0%	40.0%	14.3%
部活動に入っても帰宅できるか	7.1%	54.5%	50.0%	28.6%
塾に通っても帰宅できるか	14.3%	9.1%	0.0%	0.0%
公共交通の運行便数が十分か	21.4%	0.0%	0.0%	14.3%
自宅から高校までの所要時間はどのくらいか	28.6%	27.3%	0.0%	0.0%
その他	0.0%	9.1%	0.0%	7.1%

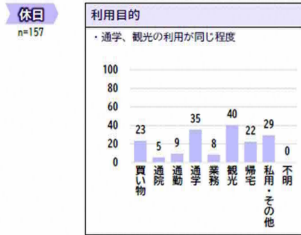
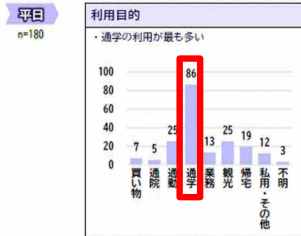
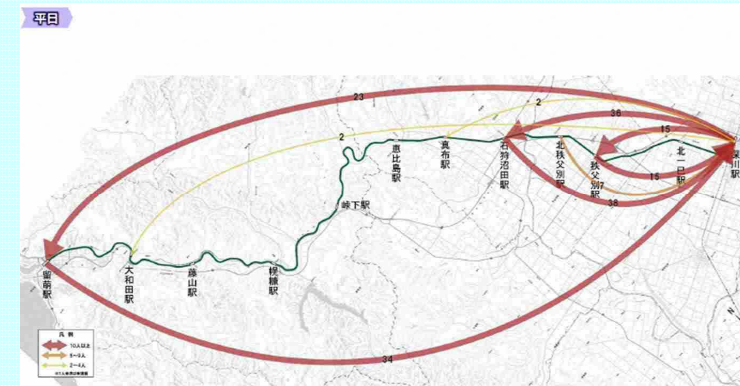
※複数回答

(3)公共交通利用者に対する乗降調査

- ・11路線の各種公共交通の利用者に対する乗降調査を実施。以下、主な路線を記載。

【JR留萌線】

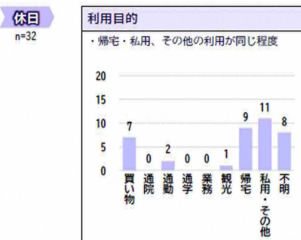
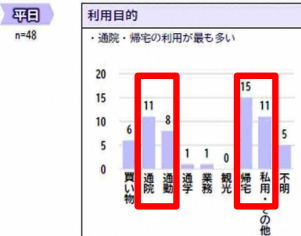
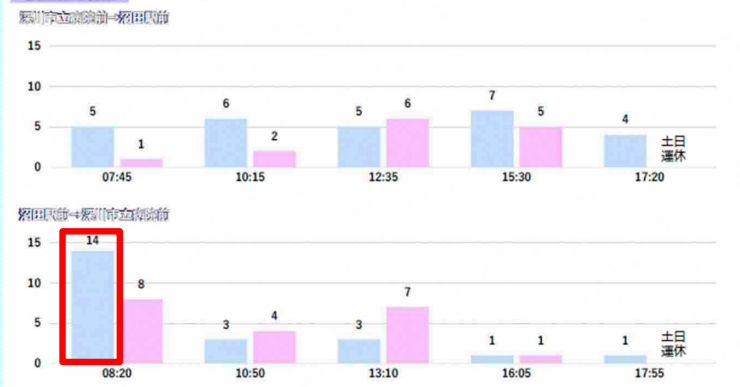
- ・利用目的としては平日は通学が最も多く、留萌始発便の利用が最も多い。また、留萌～深川間、沼田・秩父別～深川間の利用が主である。



【空知中央バス 沼田線】

- ・利用目的としては通勤、通院、私用等があり、沼田の始発便の利用が最も多い。沼田～秩父別間の利用は少ない。

便別利用者数

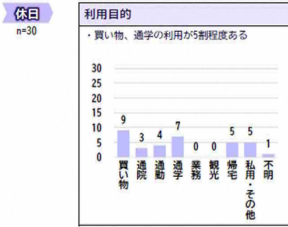
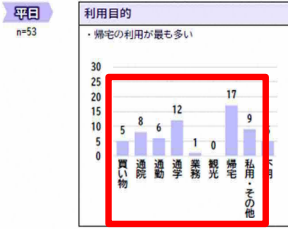
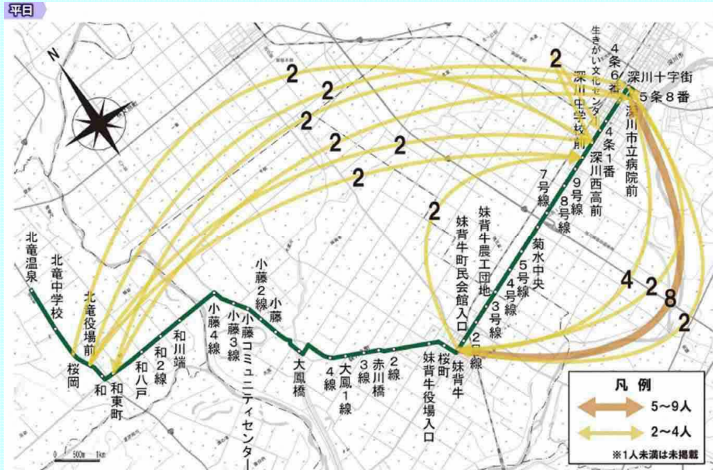


北空知4町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

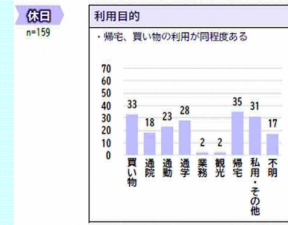
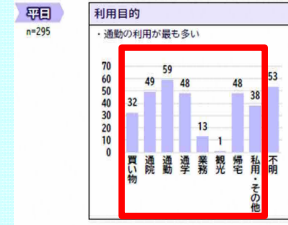
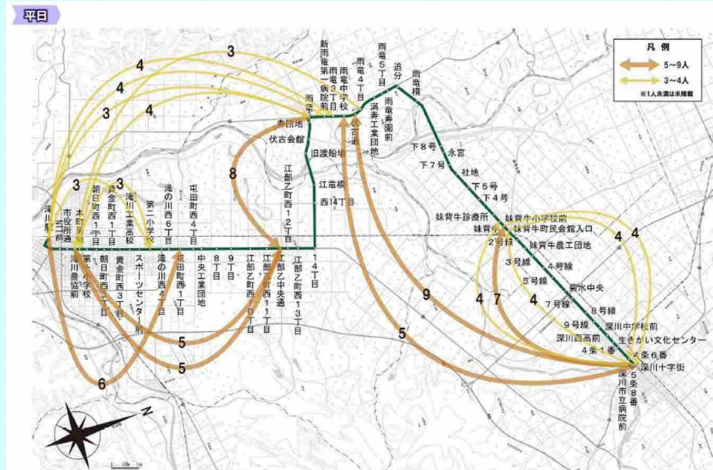
【空知中央バス 北竜線】

・利用者の多くは65歳以上、通学は3割程度で、北竜始発便の利用が最も多い。北竜～妹背牛間の利用は比較的少ない。



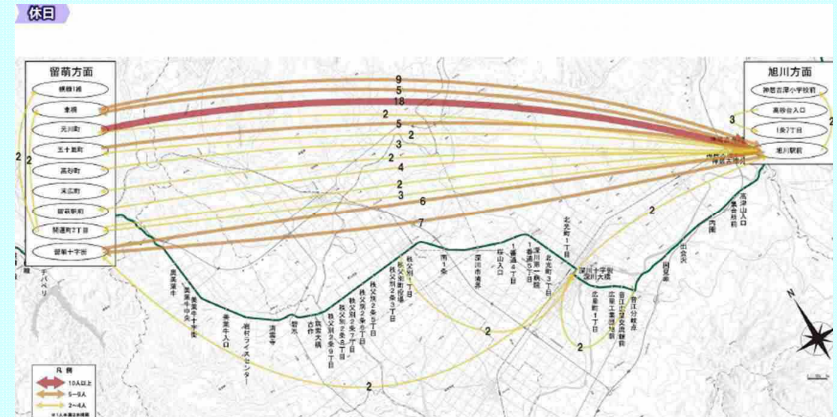
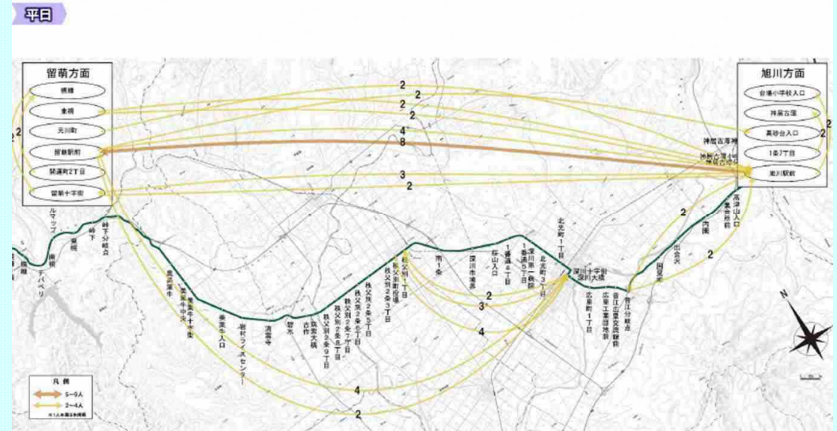
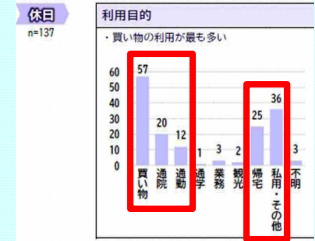
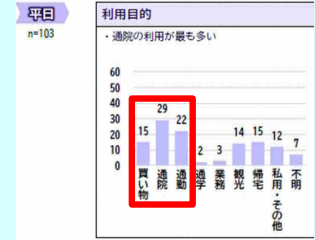
【空知中央バス 深滝線(雨竜経由)】

・通勤、通学、買い物、私用など幅広い年代で利用されており、深川市立病院始発便の利用が最も多い。妹背牛～深川間、雨竜～滝川間の利用が主である。



【沿岸バス・道北バス 留萌旭川線】

・通勤、通院、買い物などの目的が多く、留萌～旭川間、北竜・秩父別～深川への利用がある。



北空知4町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

※主な路線を記載

【JR留萌本線の方向性】

- ・JR留萌本線存廃の方向性により検討
(部分存続などの検討結果によって今後調整)

※現状維持にあたっての課題

鉄道とバスが共存する持続的な地域交通の確保(JR駅までのアクセス交通の維持、鉄道とバスの維持に係る地域負担)

【空知中央バス 沼田線】

- ・JR留萌本線存廃の方向性により検討
(部分存続などの検討結果によって今後調整)

※現状維持にあたっての課題

鉄道とバスが共存する持続的な地域交通の確保(鉄道とバスの維持に係る地域負担)

【空知中央バス 北竜線】

- ・関係自治体で運行費を支援して運行を継続、又は、北竜温泉～妹背牛市街地間で路線の短絡化の検討、又は、滝川北竜線のアクセス交通(追分市街での乗り継ぎ)による滝川市や深川市への生活動線確保の検討など、深滝線(雨竜町経由)及びJR函館本線との接続性を確保することで運行費補助の圧縮を図る

【空知中央バス 深滝線(雨竜経由)】

- ・関係自治体等で運行費を支援して運行を継続。※他路線との接続性を確保し、輸送量の向上を目指す

北空知4町地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

【沿岸バス・道北バス 留萌旭川線】

- ・JR留萌本線存廃の方向性により検討
(部分存続などの検討結果によって今後調整)

※現状維持にあたっての課題

鉄道とバスが共存する持続的な地域交通の確保(鉄道とバスの維持に係る地域負担)

●事業実施の適切性

事業は計画どおり適切に実施されている。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果(案)

運輸局記載欄